

大学院修了にあたり

大学院修了にあたり

顎顔面口腔外科学分野 木口哲郎

大学入学以来、約10年間本学におりますが、今回初めて歯学部ニュースに投稿させていただきます。この度、大学院修了にあたりというテーマで執筆する機会を頂きましたので、私の大学院生活について振り返りたいと思います。

大学院進学のかっけは、臨床研修修了後の進路を決める際、大学で研究をやってみたい、大学時代に十分できなかった口腔外科の勉強をもっとしてみたいという漠然とした考えからでした。歯科医師として勤務し、生計を立てている同期も数多くいる中、大学院進学に最初は少し不安も感じておりました。幸いにも、自分の同期で大学院に進学する人が多く、互いに切磋琢磨しながら充実した4年間を過ごすことができたと思います。

大学院1年目は、大学院講義とともに、口腔外科8ヵ月、歯科麻酔科4ヵ月の臨床を学ぶ機会を得ました。指導医の先生方から懇切丁寧な指導を受けながら、外科基本手技や病棟管理、麻酔管理などを学ばせて頂きました。大学院2年目からは、本格的な研究生活が始まります。歯科薬理学分野で基礎研究をすることが決まり、培養細胞や組織を用いた口腔扁平上皮癌進展の分子生物学的解析に関する研究を行って参りました。基礎研究関連の分野は、大学時代はどちらかというと苦手

意識を持っていましたので、論文や大学時代に購入した「細胞の分子生物学」という厚さ6cmほどにもなる本を傍らに、基本から学習しました。実験スケジュールの関係上、時には土日や深夜に大学で実験することもありましたが、新たな発見となり得るデータが出たときは今までの苦労を忘れるほど研究が楽しく感じられました。海外の学会発表では、自分の英語力の乏しさを痛感することもありましたが、国内の学会含め、多くの先生方とディスカッションを行い、貴重なアドバイスを頂き、大変勉強になりました。

今後は、大学院で培った経験を糧に臨床や研究の場で貢献できるよう努力していく所存です。最後になりましたが、この場をお借りしましてこれまでお世話になりました先生方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



大学院修了にあたり

包括歯科補綴学分野 設 樂 仁 子

大学院に進学してあっという間に4年の月日が過ぎようとしています。学生から考えると11年も新潟にいることになるとは信じられません。私は大学院に入るかどうかを3回目の大学院募集締め切り当日まで悩んでおり、ある先生の一言がなければ大学院に入っていなかったかもしれません。あの時声をかけていただかなければ、院生になっていなかったかもしれないと思うとなんだか不思議な感じがします。

私は「舌圧と舌運動」についてというテーマで研究をしてきました。舌運動を測定する装置は新しく導入したものであったため、計測方法などがわからず最初はとても苦労しましたが、指導医の藤原先生のもとなんとか研究を進めていきました。おかげで、国際学会に参加し発表するという貴重な経験をすることができました。国際学会では、ニンジンなど日本ではあまり試料にしないであろう食品を使った研究の口演や、外国の人との交流（観光）、など異文化に触れることができました。（私は英語が苦手なのでほとんど会話はできませんでした…。）

大学院生活は大変なこともありましたが、このようにとても充実したもので、大学院に入っていなければ経験することができなかった様々な経験をし、貴重な時間を過ごすことができました。そ

して何よりもありがたかったことが、医局の方針で様々な学会に積極的に参加することができたため、講演や発表を聴くチャンスやいろいろな人と出会う機会がとても多かったことです。この4年間で学んだことを生かし、これからも精進していきたいと思っております。最後になりましたが小野高裕教授、藤原先生をはじめ、包括歯科補綴学分野の先生方々に心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



大学院修了にあたり

歯科矯正学分野 栗原 加奈子

私は北海道大学病院での歯科医師臨床研修修了後、2015年4月当教室に入局致しました。矯正を学びたくて歯学部を目指し、大学院入学時はやっとスタート地点に立てたと思っていましたが、早くも4年が経過しようとしています。

臨床では「現症の把握」に苦勞し、悩み考えた4年間だったと思います。現症の把握のために資料を整えることは最低条件で、現症の把握ができなければ適切な治療方針立案もできません。当初は資料作製過程でのエラーも多く、トレース1枚、技工物1つ完成させるだけで相当な時間がかかりました。1つの症例から学べることはとても多く、それだけにわからないことも多く、時間が惜しくて深夜まで残ったり休日も大学にきては症例と向き合う日々でした。

研究は、矯正臨床における難治性疾患の1つである開咬症例の発症要因と治療後の安定性に係わる舌動態の特徴とを明らかにするため、開咬症例の嚥下時舌圧発現様相に着目した機能研究を行いました。歯科矯正学分野と包括歯科補綴学分野の共同研究として、国内外の学会で研究成果の発表をさせていただきましたが、そこでの経験や人との出会いは毎回有意義で貴重な経験の連続でし

た。参加者との意見交換を通して自分の研究の立ち位置を確認できたばかりでなく、研究課題を明確化しより客観的な考察が可能になったと思います。

4年間、臨床と研究の両立で毎日が慌ただしく過ぎていきました。そんな中、同期や近い学年の先生の実在は非常に励みとなりました。失敗から学ぶことが多かったものの、今思うと1つとして無駄なことはなかったように思います。思い切り勉強できた環境に感謝し、臨床、研究ともに次の課題に向けて今後より一層精進して参ります。ご指導を賜りました齋藤功教授、指導医の福井忠雄先生をはじめとする歯科矯正学分野の先生、包括歯科補綴学分野の小野高裕教授、堀一浩先生、ならびに同門の先生には心よりお礼申し上げます。



歯科矯正学分野同期の先生と、筆者は左前

大学院を振り返って

歯学教育研究開発学分野 佐藤 拓実

大学院生活も終わりに差し掛かり、振り返ると研究、診療、外勤、学会と慌ただしくも目まぐるしい4年間でした。

本稿では簡単にではありますが、大学院進学を決めた理由と、研究のことに絞って書かせていただきます。

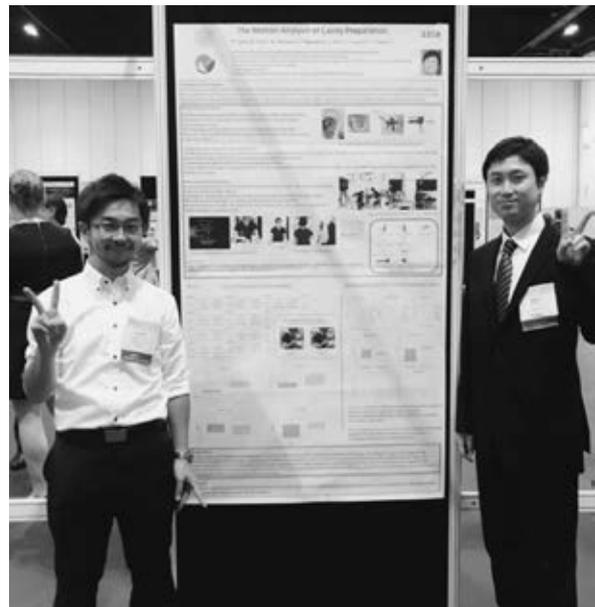
私は大学での臨床実習に始まり、開業医勤務までの経験から、歯科医師の教育、特に臨床技能教育について疑問と不安を抱き、この分野には多くの問題点があり、これを解決するのは喫緊の課題であると感じるようになりました。その点で歯学教育研究開発学分野への入局は魅力的でした。ただ大学院進学については多少及び腰になっていました。というのも大学5年生の時に行った簡単な研究「ヒトの嗅覚受容体遺伝子におけるSNPの網羅的解析」の経験から、研究とは難しく、根気のいるもので、成果が出るかどうかは正に神頼みということを思い知ったからです。しかしながら当分野の藤井規孝教授には臨床研修、後期臨床研修の2年間とてもお世話になったこともあり、安心して進学を決意することができました。

私の研究テーマは「歯科治療時の姿勢の解析」です。モーションキャプチャシステムという動作計測システムを用いて、歯科治療における術者の身体各部位、インスツルメント等の時系列的で三次元的な位置の解析を行っています。歯科医療分野ではこれまでほとんど試みられなかったことであり、結果の扱い方、その解釈、動作の特徴の発見というすべてを一から考えなければならず、多くの壁にぶつかることになりました。しかし幸い

なことに共同研究させていただいている、本学工学部福祉人間工学科の林豊彦教授がこのシステムに明るく、同研究室の大学生、大学院生らと共に切磋琢磨する充実した日々となりました。

また大変ありがたいことに、研究内容を各種学会で発表させていただく機会にも恵まれました。中でもIADR2018でポスター発表を行ったことが一番印象に残っています。各国によって歯科医療を取り巻く環境は異なりますので、当然ながら関心事は異なります。そのような背景から、所謂国際色豊かな発表の数々が大変興味深くありました。

最後になりますが、このような4年間の貴重な経験をさせていただき、またご指導いただいた藤井規孝教授を始め、歯学教育研究開発学分野・歯科総合診療部の先生方そして共同研究者の皆様にご心より御礼申し上げます。



IADRにて。筆者は右

平成30年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	野々村 絢子 （口腔生命科学）	Relationships between changes of posterior occlusal support status and risk for protein-energy malnutrition among the Japanese community-dwelling elderly （日本の地域在住高齢者における臼歯部の咬合の変化とたんぱく質エネルギー低栄養状態のリスクの関係）
博士（歯学）	竹内 亮祐 （口腔生命科学）	Immunohistochemical and gene expression analysis of Glut 1 and Runx 2 in reparative dentin formation during dental pulp wound healing （歯髄創傷治癒時の修復象牙質形成におけるGlut 1とRunx 2の免疫組織化学的および遺伝子発現解析）
博士（歯学）	遠問 愛子 （口腔生命科学）	Glucose Transporter-2 and 4 Are Involved in Glucose Supply During Pulpal Wound Healing Following Pulpotomy with Mineral Trioxide Aggregate in Rat Molars （グルコーストランスポーター-2および4はラット臼歯のMineral Trioxide Aggregateによる断髄後の歯髄創傷治癒過程においてグルコース供給に関与する）
博士（歯学）	長谷川 泰輔 （口腔生命科学）	Sulfated vizantin causes the detachment of biofilms composed mainly of the genus Streptococcus by modulating microbial adhesion. （硫酸化体ビザンチンはStreptococcus属の付着関連遺伝子群の発現を低下させることでバイオフィルム構造を剥離する）
博士（歯学）	永井 康介 （口腔生命科学）	Pneumococcal DNA-binding proteins released through autolysis induce the production of proinflammatory cytokines via toll-like receptor 4 （自己溶菌に伴い漏出する肺炎球菌のDNA結合タンパク質は、TLR4を介して炎症性サイトカインの産生を促進する）
博士（歯学）	SULIMAN Mubarak Osman Mahgoub （口腔生命科学）	The Effect of Collagen Cross-links Deficiency on the Incorporation of Bone Grafts （移植骨定着に対するコラーゲンクロスリンク量低下の影響）
博士（歯学）	木口 哲郎 （口腔生命科学）	R2 TP complex contributes to cancer development in oral squamous cell carcinoma (OSCC) （R2 TP複合体は口腔扁平上皮癌進展に寄与する）
博士（歯学）	中谷 暢佑 （口腔生命科学）	Inhibitory effects of fluoxetine, an antidepressant drug, on masseter muscle nociception at the trigeminal subnucleus caudalis and upper cervical spinal cord regions in a rat model of psychophysical stress. （フルオキセチンは情動ストレスによる三叉神経脊髄路核尾側亜核・上位頸髄部での咬筋侵害応答の増強を抑制する）
博士（歯学）	石川 隆一 （口腔生命科学）	Sox Genes Show Spatiotemporal Expression during Murine Tongue and Eyelid （Sox遺伝子群は舌と目蓋の発生において、時空間的な発現を示す）
博士（歯学）	CHE Yulan （口腔生命科学）	MAEA rs6815464 polymorphism and periodontitis in postmenopausal Japanese females: a cross-sectional study （閉経後日本女性におけるMAEArs6815464多型と歯周炎：横断研究）
博士（歯学）	原 実生 （口腔生命科学）	A bacterial metabolite ameliorates periodontal pathogen-induced gingival epithelial barrier disruption via GPR40 signaling. （細菌由来のメタボライトはGPR40シグナリングを介して歯周病原細菌に誘導される歯肉上皮バリア機能の低下を抑制する）
博士（歯学）	竹内 麻衣 （口腔生命科学）	Indirect regulation of PCSK9 gene in inflammatory response by <i>Porphyromonas gingivalis</i> infection （ <i>Porphyromonas gingivalis</i> 感染時炎症応答におけるPCSK9遺伝子発現の制御機構）

博士の専攻 分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	網谷 季莉子 （口腔生命科学）	性別，年代別にみた閉塞性睡眠時無呼吸と顎顔面形態，BMIとの関連
博士（歯学）	市川 佳弥 （口腔生命科学）	術前顎矯正治療を行った片側性唇顎口蓋裂患者の外鼻形態の変化
博士（歯学）	栗原 加奈子 （口腔生命科学）	The effect of tongue thrusting on tongue pressure production during swallowing in adult anterior open bite cases （成人前歯部開咬症の舌突出が嚥下時舌圧発現様相に与える影響）
博士（歯学）	藤田 瑛 （口腔生命科学）	有限要素解析を用いた顎偏位を伴う骨格性下顎前突症の顎骨内応力解析
博士（歯学）	砂田 悠香子 （口腔生命科学）	Measurement of hyoid muscle activity and hyoid-laryngeal position during tongue lift movement （舌挙上運動中の舌骨筋活動および舌骨喉頭位置の測定）
博士（歯学）	安田 昌代 （口腔生命科学）	口腔乾燥感をもたらす要因の性別および年齢別検討
博士（歯学）	大川 純平 （口腔生命科学）	Estimation of Pharyngeal Residue after Swallowing by Retronasal Aroma （レトロネーザルアロマを用いた嚥下後咽頭残留量の推定）
博士（歯学）	菊地 さつき （口腔生命科学）	部分床義歯装着による咀嚼能力の変化に影響する因子の探索
博士（歯学）	SALAZAR Simonne Estacio （口腔生命科学）	The Impact of a newly constructed removable denture to the objective and subjective masticatory function （義歯新製が咀嚼機能に及ぼす影響）
博士（歯学）	設楽 仁子 （口腔生命科学）	水嚥下時の舌圧発現様相と舌運動との関係
博士（歯学）	藤井 克則 （口腔生命科学）	都市部一般住民における継続的な歯科定期受診と咀嚼能率との関係について 一吹田研究一
博士（歯学）	曾我 麻里恵 （口腔生命科学）	小唾液腺の口腔内超音波画像解剖アトラス策定の試み
博士（歯学）	佐藤 拓実 （口腔生命科学）	光学式モーションキャプチャ・システムによる歯牙切削動作の定量的解析
博士（歯学）	小山 和泉 （口腔生命科学）	深達度 5 mm以下の舌癌の後発頸部リンパ節転移様相に関する検討—超音波診断による経過観察における早期検出のための姿勢推定OpenPoseの応用—
博士（歯学）	高 昇将 （口腔生命科学）	Effects of silanization conditions on flexural properties of SiC fiber-reinforced resin （シランカップリング処理の条件がSiC繊維強化型レジンの曲げ特性におよぼす影響）

平成30年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士前期・博士後期課程修了者論文名

専攻分野の名称	氏名（専攻）	論文名
修士 (口腔保健福祉学)	石 黒 明日香 (口腔生命福祉学)	新潟大学歯学部口腔生命福祉学卒業生の就職状況と仕事および学科教育満足度に関する調査
修士 (口腔保健福祉学)	窪 田 し ほ (口腔生命福祉学)	婦人保護事業の利用者が公的支援から疎外される要因に関する一考察
修士 (口腔保健福祉学)	渋 木 瞳 (口腔生命福祉学)	身体的フレイル患者に対する歩行機能訓練に伴う口腔・嚥下機能の改善を検証する
修士 (口腔保健福祉学)	牧 口 由 依 (口腔生命福祉学)	通所型障害者福祉施設における口腔の健康維持に向けた取り組み状況に関する実態調査
博士 (口腔保健福祉学)	鈴 木 瞳 (口腔生命福祉学)	Effects of preoperative periodontal treatment on postoperative infection in cardiac valve surgery (心臓弁手術患者における術前歯周治療による術後感染への影響)
博士 (口腔保健福祉学)	中 田 悠 (口腔生命福祉学)	Perioperative changes in knowledge and attitude towards oral health by oral health education (周術期患者における口腔衛生指導による口腔衛生への意識改善)
博士 (口腔保健福祉学)	新 井 恵 (口腔生命福祉学)	透析患者に対して歯科衛生士が行う口腔健康教育の有用性について
博士 (口腔保健福祉学)	木 村 有 子 (口腔生命福祉学)	「歯科大学病院に勤務する中堅歯科衛生士の成長過程における悩みと問題解決の変遷」